

民主党の非常識な中絶新法が「子供の生贄」だとして非難される

ミズーリ共和党新議員ジョシュ・ホーリーが、中絶と子供殺しを非難する

【訳者注】この問題は、今起こっている、いくつかの問題の展開とパターンを共有している。妊娠中絶の是非については昔から議論があり、これがプロ・ライフ（子の生命重視）とプロ・チョイス（産む者の自由重視）にわかれて争っている間は、常識の範囲内であり、善悪の違いとは言えなかった。LGBTの問題でも、女性の権利や、異常結婚・異常性同一の問題を論じている間は、思いやりの問題に還元することもできた。しかし、これが本音をむき出しにして戦闘的になってくると、実はサタンが奥にひそんでいたことがわかってきた。

中絶の場合は、もし許容される妊娠の段階を出産直前にまで後退させれば、実質的に新生児と同じになり、現に彼らはそれを考えている。あるビデオでは、5歳くらいの子供が「赤ちゃんを殺すときにはね、こうこうして…」と説明して、大人を啞然とさせる場面が出てくる。異常性関係の場合には、異状さがエスカレートして、ペドフィリア（と殺人）に驚かなくなる。ともにサタンの人間破壊の計略と考えられる。共和党と民主党でも、もともとほとんど違いがなかったものが、今は民主党がサタンの手先として、共和党に対立している。陰謀団は、人間を破壊すると同時に、党派、人種、民族、宗教間で分裂させて、争わせている。トランプと愛国者側はQに導かれ、それをまた利用しているように思われる。

Jay Greenberg, www.neonnettle.com

February 8, 2019



ミズーリ州選出上院議員
共和党新人の Josh Hawley
が、中絶と子供殺しに反対
して立ち上がった

民主党が、最近、後期（臨月）中絶を押し進めていることから、「子供の生贖」を推奨しているものとして、強く非難されている。

ニューヨーク州の民主党知事 Andrew Cuomo は、最近、州法案に署名し、子供が誕生のぎりぎりの瞬間まで、中絶を許可する法律を成立させた。

何人かの他の民主党員が、他の州でも同じような法律を押し進めているが、戦闘的なヴァージニア州知事の Ralph Northam は、最近、生きて生まれた赤ん坊を、もし母親が望まなければ、放置して死なせる決定をしてもよい、という法案を推進している。

ドナルド・トランプ大統領は、火曜日の夜、歴史的な一般教書演説で、この問題を取り上げ、ニューヨークではこの法律を通したとき、「法制定者たちは喜びで喝采した」と言っていた。

https://www.youtube.com/watch?v=_vbJhlBpDs4

https://youtu.be/_vbJhlBpDs4

（トランプが一般教書演説で、ニューヨークの中絶法を一刀両断）



世界は恐怖に震え上がった——民主党州知事アンドルー・クオモが新しい“出産ぎりぎり”法案に署名して、新 NY 州法を成立させたときだった

Western Journal によれば、法制定者たちの全部が、左翼の“進歩”というニセの神に礼拝したわけではない、という。<https://www.westernjournal.com/ct/child-sacrifices-freshman-sen/>

2月4日、ミズーリの共和党 Josh Hawley——11月に前共和党の Claire McCaskill 上院議員

を敗北させた、新人共和党上院議員——は、上院の演壇で、この進歩思想の横行に抗う立場を取り、中絶と子供殺しを非難して、火のような演説を行った。

ホーリーは、ネブラスカの上院議員 Ben Sasse の導入した法制化を、支持すると言った。それはこういうものだ——「この医療規定は、中絶に失敗した後で生きて生まれた子供を、ちゃんと治療せよという規定であり、しかもそれは、同じ妊娠の段階で生まれた、他のどんな子供にも行われる同じ治療法を適用せよ、というものである。」

この新人上院議員は、民主党員に向って、このような法制化が必要なのだと喝破した。

「ニューヨークの、そして今度はヴァージニアの政治家たちの、過激な考え方は、全くはかり難いものです。彼らは、我々の社会の最も傷つきやすい構成員の、生まれる前の罪のない者たちに、法の保護を拒否しようとしているのです。そしてこの子らを中絶させ、彼らを生まれるその瞬間まで、殺してよいと言っているのです。」

「ヴァージニア州知事のラルフ・ノーサムのように、くもし自分の好きなようにできるなら、中絶を失敗して生き残った子は、外に出して“楽にしてやり”——彼自身の言葉——医者と両親にその運命を決めさせる」と言明するような人々を、私は理解できません。」

「これが本当に、アメリカで起こっていることでしょうか？　これが本当に、今日の民主党の考えていることなののでしょうか？」と、彼は続けた。

弱者に対する強力な支配の、この残酷で不当なやり方は、記録された歴史に共通している。

ホーリーは、古代ギリシャと、彼らのスパルタ的な人間の見方に、ほとんどの人々を奴隷と見る世界観に注意を促した。ローマの異教徒も同じような考え方をした、と彼は言った。

「強いものが支配をしたのです。ほとんどの生き物を、彼らは無視したのです。」

「これが各時代の一般的なルールでした。アズテク、マヤ、インカなど、すべてが子供の生贄を行いました。」

「考古学者が最近、埋葬地を発見しましたが、そこには 140 人以上の子供たちが、生贄の儀式で、手足をバラバラにされて埋葬されていました。」

「そしてそれが、ずっと時代を下って続いてきたのです。強い者が弱い者を餌食にするので

す。少数者が多数者を支配するのです。個人の生命は無視されるのです。」



ネブラスカの上院議員 Ben Sasse は、「医療法制定者たちは、中絶失敗で生き残った子供に対する手当を考えよ」と言っている

アメリカはしかし、全く異なった信念の上に築かれていると彼は言った。

「ここアメリカ合衆国の我々は、異なった信念を持っています。我々の憲法に書かれています——アメリカの自由という構築物の全体が、非常に異なった考え方の上に立っています——それは強力であると同時に単純な信念です——すべての生命が重要だという信念です。」

「我々は・・・すべての人間が尊厳と価値をもっていて、それは、強い者や富める者に強制されて、彼らに引き渡すことのできないものだと思っています。」

「それは国家や都市から、彼らに与えられるものではありません。」

「それは生まれや、社会的地位によるものではありません。それは、人の本来持っている権利、生きた神の似姿に創られた人間の権利によるものです。」

ホーリーは壁を建造しているのではない。

彼は、海外の兵士の給料の値上げを交渉しているのでもない。またアメリカの労働者を支持しているのでもない。

しかし間違いなく、これこそ、アメリカを再び偉大にするスピーチではなからうか。